

# 部分(床)義歯を長持ちさせるための取り扱い・管理のポイント

厚生労働省の「歯科疾患実態調査」では50歳以降では歯を失う人が多くなり、それとともに入れ歯人口が増加していることが発表されています(表1)。義歯は歯を失った人にとって重要な補助具ですが、口腔の機能を回復し、生活の質を向上させる役割を果たすためには、適合性が高く、よく噛める良好な義歯を装着することが大前提となります。この場合の義歯とは失った歯の部分に固定性義歯(ブリッジ)、可撤性義歯(取り外しができる入れ歯)といった補綴物をいいます。ブリッジは口腔内に歯科用セメントにより合着(接着)してしまうため外すことができず、ご自分の歯と同じように歯ブラシや補助器具を用いて口腔清掃できますが、可撤性義歯の場合は残っている歯には通常の歯磨きを行い、可撤性義歯(入れ歯)はご自身で取り出して個別に管理するという二つの管理を同時に行う必要があるのです。

表1 令和4年歯科疾患実態調査 補綴物の装着の有無と各補綴物の装着者の割合(15歳以上)

年齢階級(歳)	被調査者数(人)	補綴物を装着している者(人)	補綴物を装着している者の割合(%)				
			総数	ブリッジ装着者	部分床義歯装着者	全部床義歯装着者	インプラント装着者
総数	2,097	1,040	49.6	32.9	20.1	8.7	3.2
15~19	49	-	-	-	-	-	-
20~24	52	-	-	-	-	-	-
25~29	38	1	2.6	-	-	-	2.6
30~34	75	5	6.7	6.7	-	-	1.3
35~39	83	5	6.0	4.8	1.2	-	-
40~44	116	13	11.2	10.3	0.9	-	-
45~49	145	21	14.5	13.1	0.7	0.7	0.7
50~54	155	48	31.0	24.5	5.2	0.6	3.2
55~59	137	55	40.1	31.4	8.8	0.7	2.9
60~64	177	91	51.4	40.1	15.3	2.8	4.5
65~69	220	118	53.6	41.4	19.1	3.2	3.6
70~74	305	228	74.8	53.8	34.8	9.2	5.9
75~79	258	200	77.5	45.3	34.9	17.8	3.9
80~84	182	164	90.1	45.1	47.8	30.2	4.9
85~	105	91	86.7	41.0	43.8	36.2	2.9

注) 複数の種類の補綴物を装着している者がいるため、各補綴物の装着者の割合を合計すると100%以上となる年齢階級がある。

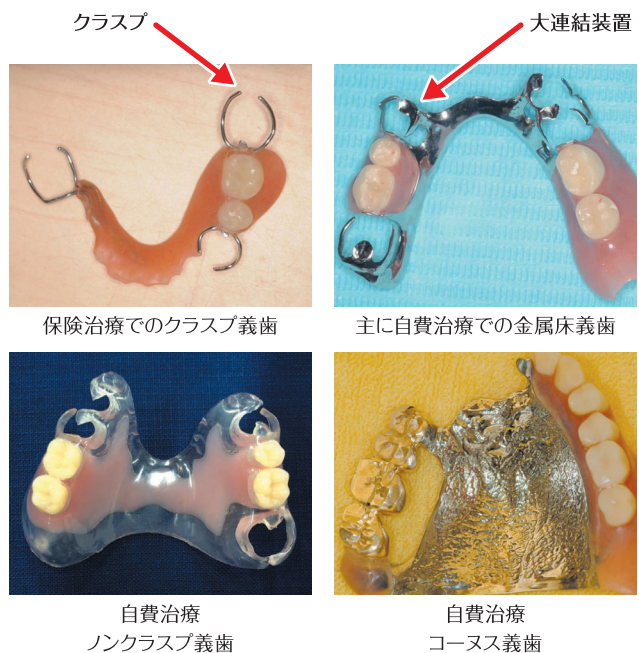
出典: 厚生労働省 令和4年歯科疾患実態調査結果の概要 表14

可撤性義歯は部分(床)義歯と総義歯に分類されますが、それぞれ複雑な構造を持っていますので、これを理解することは義歯の取り扱い管理の重要なポイントになります。ここでは可撤性部分(床)義歯についての基本的な構造、特徴、そして適切なケア方法について解説します。

## 部分(床)義歯(パーシャルデンチャー)

部分(床)義歯は、いくつかの歯が残っている場合に使用されます。残っている歯に固定するためのアタッチメント金具やクリップが付いており、周囲の歯を支えにして安定させるように設計されています。

歯肉など土台の部分(床)を呼び、金属やレジン(アクリル樹脂)で作られることが一般的です。クリップをクラスプと呼び、多くの場合、金属で作られます。近年、金属のクラスプが見えるのを嫌う傾向にあり、ノンクラスプ義歯も増えてきましたが、これは樹脂の中でも特殊な素材で作られています。樹脂でありながら金属のように強く弾力もあるものです。人工歯にはレジン、ハイブリッドレジン、セラミック素材のものがあります。



## 義歯のケア方法

### 1 義歯の汚れを確認します



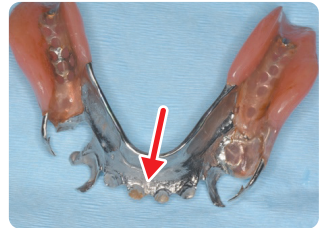
人工歯の周りに歯石がついている



床(ピンク部分)にプラークが沈着



人工歯にステイン(色素沈着)



義歯の裏側に歯石が沈着

### 2 毎日の清掃

義歯は毎食後、まず専用のブラシを用いて流水下で食べかすを洗い流した後に義歯用洗浄剤を使って清掃します。この時は食べかすや汚れを取るというより、義歯についた細菌(デンタルプラーク)を除菌するという意味合いが大きいです。特に就寝前は丁寧に清掃しましょう。\*除菌をする目的で熱湯消毒は絶対にしてはいけません。義歯の変形につながります。



### 3 義歯用洗浄剤

現在、義歯用洗浄剤は市販・歯科専売でたくさんの製品が販売されています。それぞれ有効成分、および洗浄作用によりアルカリ性・酸性・中性があり義歯の材料により使用できる洗浄剤が異なるため、注意が必要です。中性の次亜塩素酸系は細菌や真菌の殺菌効果が高い利点がある反面、金属を腐食、レジン(変色)させます。また、発泡するものとしないものがありますが、この発泡は泡で汚れを落とすのではなく、溶けた洗浄剤を攪拌させるのが目的です。歯石やステインは歯ブラシでは除去できませんので、それぞれ対象素材がアクリル樹脂、金属、セラミックなのか、何を除去するのか目的別洗浄剤を歯科医師、歯科衛生士に指導してもらう必要があります。材質にあった適切な洗浄剤を選んだら、説明書の指示に従った使い方を守りましょう。洗浄液に浸す場合は事前に義歯をよく清掃し、規定の時間を守り浸漬します(メーカーにより5~15分ですが十分にプラークを除去するには2時間くらいが必要ようです)。その後は、必ず、装着時に残留しないように十分に水洗します。

### 4 義歯の保管

義歯は乾燥しすぎると変形する可能性があるため、使用しないときは水に浸して保管するか、湿った状態で保管することが望ましいですが、長時間水に浸したままにしておくとかびや雑菌の繁殖の原因になりますので注意が必要です。

### 5 清潔な容器

義歯を保管する際は常に容器を清潔に保つように意識します。容器も汚染しカビが発生することがあります。

### 6 定期的なチェックと専門的ケア

義歯は時間と共に磨耗や亀裂、破折など必ず劣化が起こります。定期的に歯科医師によるチェックを受け、必要に応じて調整や修理を行ってもらうことで快適な義歯の使用を維持することができます。また、義歯だけではなく、義歯が接触する下部の粘膜も傷、発赤などがないか検査が必要です。そして何より歯科衛生士による専門的な口腔衛生管理を受けることで、残った歯も含めて口腔機能や口腔状況を良好に維持し、健康増進に努めていきましょう。

## まとめ

義歯は、歯を失った人にとって重要な補助具であり、生活の質を向上させるために欠かせない存在であり、義歯を適切に管理することは口腔内の健康を保つために欠かせないプロセスです。毎日の清掃、適切な管理を心がけ、定期チェック・メンテナンスを受けることで義歯の寿命だけではなく、健康寿命の延伸につながることもできるでしょう。

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 診療所委員会)